

中 学 校

平成 2 8 年度

# 教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の仮説	2
III	研究の方法	2
	1 基礎研究	2
	2 授業検討・検証授業	4
	3 研究構想図	5
IV	研究の内容	6
	〈指導事例1：第1学年〉	6
	〈指導事例2：第2学年〉	12
	〈指導事例3：第3学年〉	18
V	研究のまとめ	24
	1 研究の成果	24
	2 研究の課題	24

## 自分の意見や考えを目的や意図に応じて 効果的に伝える力を育成するための指導の工夫

### I 研究主題設定の理由

中学校学習指導要領国語における「書くこと」の目標では、第1学年「目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えた的確に書く能力」、第2学年「目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力」、第3学年「目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力」を身に付けさせることを挙げている。

各教科等における言語活動の充実を支える基盤となる力の育成は、国語科の大きな役割である。「これからの時代に求められる国語力について」（平成16年2月3日文化審議会答申）では、「指導の重点は『読む・書く』にある」と述べられている。これは、論理的思考力の育成は「書く」ことが中心になると考えられることによる。同答申では、「書く力」について、「自分の考えや意見などを正確に伝える論理的な文章を書くことができる」という観点において、「客観的な根拠や理由に基づいて、自分の考えや意見を書くことができる。」、「読み手が理解しやすい構成を意識して、文章を書くことができる。」、「事実や根拠などを明らかにした論理的な文章を書くことができる。」といった目標を挙げている。

「平成27年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』」（東京都教育委員会）の国語に関する調査（中学校第2学年対象）【結果分析】においては、「集めた材料を、目的や意図に応じて分類・整理しながら、自分の考えをまとめること」（正答率35.0%、無解答率8.1%）とあり、正答率の低さと無解答率の高さが見られる。さらに、「平成27年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の国語に関する調査（中学校第3学年対象）報告書において、「資料の提示を工夫しその理由を具体的に書くこと」（正答率56.6%、無解答率2.7%）、「文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くこと」（正答率31.7%、無解答率10.9%）が課題のある事項として挙げられている。これらの調査結果から、目的や意図に応じて根拠を明確にして書く点において課題が見られることが分かる。

また、「書くこと」の指導の場面において、「意見に対する根拠が見つからない」、「意見と根拠につながりのある文章が書けない」、「自分の思いを主張だけに留まる文章を書く」といった生徒がいるという実態がある。以上のような生徒に対し、自分の考えや意見に具体的な説明や具体例を加えたり、根拠となる内容が自分の意見や考えを支えるものであるかを吟味したりするように指導する必要がある。

相手に伝えるためには、自分の思いや考えをただ繰り返すだけでは伝わらない。自分の考えや意見を相手に伝え、理解してもらうためには、自分の考えや意見を明確にした上で、それを支える根拠が挙げられていることが必要になる。また、課題について一人で考えるだけでは、意見が主観的になる可能性があるため、様々な角度から課題について検討し、多様な視点から課題について考えることで自分の意見の客観性を高める必要がある。

そこで、国語科の授業において「書くこと」を指導する際に、「課題設定や取材」、「構

成」の段階で、他者と意見を交流し、多角的な視点から意見や考えについての根拠を吟味させる。それにより、自分の意見の根拠となる事柄の客観性や妥当性、信頼性が高まり、根拠を明確にして、自分の意見や考えを相手に効果的に伝えられるようになることを考えた。

これらのことを踏まえ、本研究では、「書くこと」の指導に焦点を当て、研究主題を「自分の意見や考えを目的や意図に応じて効果的に伝える力を育成するための指導の工夫」とし、研究を行うこととした。

## II 研究の仮説

本研究では、「課題設定や取材」、「構成」の段階で意見を視覚化、整理することで、自分の考えを広げたり、深めたりすることができ、それにより根拠を明確にし、自分の意見や考えを効果的に相手に伝える力を育成できるのではないかと考える。そこで、次に挙げる研究の仮説を設定し、検証授業を行っていくこととする。

「書くこと」の学習において、「課題設定や取材」、「構成」の際に、他者と意見を交流し、意見や考えについての根拠を多角的な視点から吟味することで、根拠を明確にして、自分の意見や考えを目的や意図に応じて効果的に表現できる力を身に付けることができるだろう。

## III 研究の方法

### 1 基礎研究

#### (1) 事前授業

本研究をすすめるに当たり、まず、生徒が書いた文章を分析し、「書くこと」についての課題を明らかにすることとした。その結果、説得力が十分でない文章は、意見と根拠が対応していない、根拠に妥当性がない、構成が不十分で、論理に飛躍が見られる等傾向があることが分かった。このことは、自分の意見を支える根拠として何を書くべきかが明確になっておらず、自分の意見を十分に深めたり、読み手を意識したりすることがなく、ただ思いっくままに書いていることによるものであると考えられる。

#### (2) 調査研究

「平成 27 年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』」（東京都教育委員会）の国語に関する調査（中学校第 2 学年対象）、「平成 27 年度全国学力・学習調査」（文部科学省）の国語に関する調査（中学校第 3 学年対象）等を参考にして、東京都の中学生の国語の能力を分析する。全国学力・学習調査の過去 3 年間の B 問題における記述式問題の結果からも、「根拠を明確にして書く」ことが引き続きの課題となっていることが分かる。

全国学力・学習状況調査（文部科学省）

【中学国語】B問題における記述式問題の結果

	出題の趣旨	正答率	無解答率
平成 25 年度	文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書く	66.2%	11.0%
	漢字の特徴を捉えて、自分の考えを具体的に書く	65.1%	5.2%
平成 26 年度	文章の構成や表現の仕方などについて根拠を明確にして自分の考えを書く	48.9%	3.3%
	落語に表れているものの見方や考え方について根拠を明確にして自分の考えを書く	47.2%	8.3%
平成 27 年度	資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く	56.6%	2.7%
	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く	31.7%	8.3%

(3) 研究の視点

事前授業と調査研究を踏まえ、中学校学習指導要領解説（国語編）等を参考にし、本研究における「身に付けさせたい力」及び各学年における「根拠となるものの例」を以下のように示す。

学年	身に付けさせたい力	根拠となるものの例
1	自分の考えや気持ちの根拠を明確にして書く能力	複数の実例や専門的な立場からの知見など
2	立場を決め、自分の考えや意見の根拠となる事実や事柄を具体的に書く能力	事実や事柄の具体的な説明や具体例
3	自分の考えや意見を裏付ける事実を根拠として書く能力	客観性や信頼性の高い資料

本研究においては、中学校学習指導要領解説（国語編）の「書くこと」の指導事項に合わせて、次の視点をもって研究を行う。

① 課題設定の工夫

課題を設定する際、多様な意見が想定できるものを設定する。また、根拠の妥当性を吟味する際には、自身の経験が手掛かりとなるので、それぞれの発達段階において、自身の経験と照らして考えることができるようなものを設定することとする。

② グループによる意見の視覚化、整理

実際に「記述」を行う前の、「課題設定や取材」、「構成」の段階で、グループによる話し合いを行うことで、テーマに対する自分の考えを広げ、深めることができると考える。

小グループでテーマについて意見を出し合わせることで、一人では気付くことができなかった視点に気づき、意見を広げさせることができる。その過程で、グループで出された意見を付箋や図表を使って整理する作業を取り入れることで、自分の意見と他の生徒の意見を視覚化することができる。また、似た意見や反対の意見を踏まえながら見ることにより、それぞれの意見の客観性や妥当性、それぞれの意見の関係を考えることができる。さらに、そのような作業を通して、出された意見を用いながら構成することで、主張と根拠のつながりをより明確にすることができ、論理的に文章を書くことができると考えた。

このように、自分とは異なる立場からの意見に触れさせることや、複数の視点で意見やその根拠の妥当性、客観性を吟味することを通して、根拠を明確にさせ、自分の意見や考えを相手に効果的に伝える力を育成できる。

この活動は「推敲」後の「交流」とは違い、課題に対する自分の視点を明確にすることを目的としており、「書くこと」に対して苦手意識のある生徒に対しても有効な取組であると考えられる。

### ③ 評価

評価の観点を示してから、「記述」させ、その評価の観点を基に「推敲」させることで、明確な目標をもって、文章を書かせ、それを自己評価させることができる。また、同じ観点を基に「交流」させることで、自分が書いた文章と他者が書いた文章とを比較し、自分の文章の優れている点と課題をそれぞれ意識させることができ、今後の「書くこと」の学習により多くを生かせると考えられる。

## 2 授業検討・検証授業

単元の学習において、以下のような学習活動を工夫することで、目的や意図に応じて効果的に伝えられる力の育成を図る。

- ① 課題に対し、自分の経験と照らして、多様な視点から考える学習活動
- ② グループで意見を視覚化、整理する学習活動
- ③ 評価の観点を意識して「記述」、「推敲」、「交流」する学習活動

このような単元を学年ごとに設定し、授業を行った後、ワークシート等に生徒が記述した内容などを基に、成果と課題を考察することによって仮説を検証する。

### 3 研究構想図

**【中学校学習指導要領国語 目標】**  
 国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や判断力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

<p>◎平成 27 年度「児童や生徒の学力向上を図るための調査（東京都教育委員会）」から</p> <p>●集めた材料を、目的や意図に応じて分類・整理しながら、自分の考えをまとめる</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">正答率 35.0%</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">無解答率 8.1%</p>	<p>◎「平成 27 年度全国学力・学習調査」（文部科学省）から</p> <p>●資料の提示を工夫し、その理由を具体的に書くこと</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">正答率 56.6% 無解答率 2.7%</p> <p>●文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くこと</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">正答率 31.7% 無解答率 8.3%</p>	<p>◎生徒の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見に対する根拠が見つからない</li> <li>・意見と根拠につながりのある文章が書けない</li> <li>・自分の思いを主張するだけに留まる文章を書く</li> </ul>
---	--	---

→目的や意図に応じて根拠を明確にして書くことに課題

**【身に付けさせたい力】**

[第 1 学年] 自分の考えや気持ちを、複数の実例や専門的立場からの知見などの根拠を明確にして書く力

[第 2 学年] 自分の考えや意見を、その根拠となる説明や具体例を加えて書く力

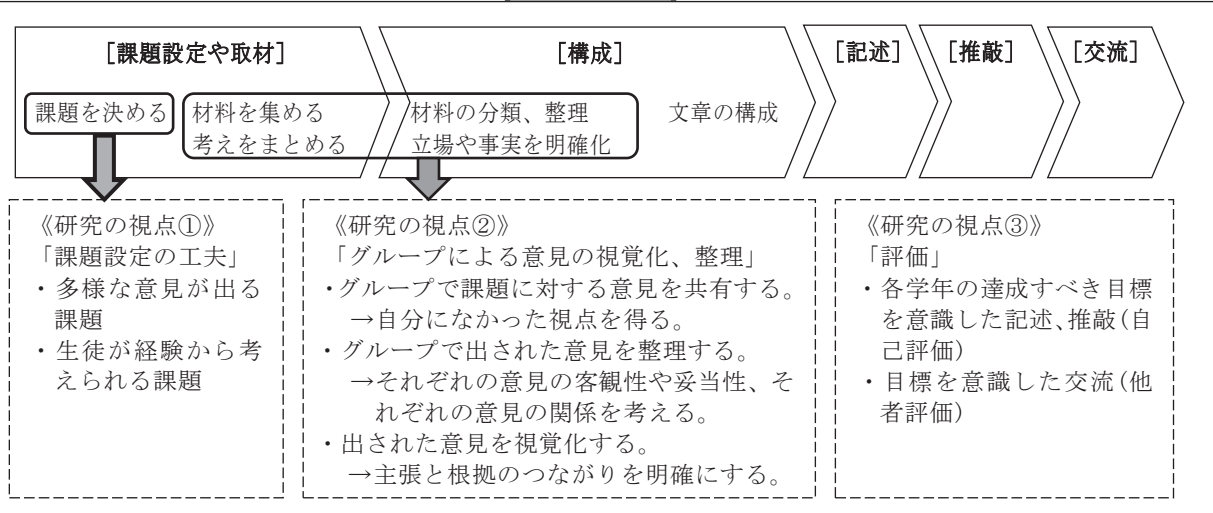
[第 3 学年] 自分の意見を、客観性や信頼性の高い資料を引用して書く力

**【研究主題】**

自分の意見や考えを目的や意図に応じて効果的に伝える力を育成するための指導の工夫

**【仮説】**

「書くこと」の学習において、「課題設定や取材」、「構成」の際に、他者と意見を交流し、意見や考えについての根拠を多角的な視点から吟味することで、根拠を明確にして、自分の意見や考えを目的や意図に応じて効果的に表現できる力を身に付けることができるだろう。



《検証授業の内容》

- ①課題に対し、自身の経験と照らして、多様な視点から考える学習活動
- ②グループで意見を視覚化、整理する学習活動
- ③評価の観点を意識して「記述」、「推敲」、「交流」する学習活動

#### IV 研究の内容

##### <指導事例1：第1学年>

自分の考えや気持ちの根拠を明確にして書く能力を育成する指導

- 1 単元名 自分の中学校のよいところを紹介する意見文を書こう  
～他者と意見を交流させて、意見を広げる～

##### 2 単元の目標

課題に対する自分の立場や考えを定め、根拠を明確にし、自分の意見や考えが効果的に伝わるように工夫して書く。

書く前の「課題設定や取材」、「構成」の段階で、他者と意見を視覚化、整理したり、書いた後の段階で、交流活動を行ったりすることで、意見の根拠や文章を互いに評価し合い、表現をよりよいものに高め、ものの見方や考え方を深める。

##### 3 評価規準

###### 【国語への関心・意欲・態度】

- ・課題に対する自分の意見を効果的に伝えるための言葉の工夫について考えようとしている。

###### 【書く能力】

- ・課題に対する自分の立場や考えを定め、根拠を明確にして書いている。

###### 【言語についての知識・理解・技能】

- ・段落の役割を考えて文章を構成できるような指示語・接続語の使い方を理解している。

##### 4 研究の視点

###### ① 課題設定の工夫

- ・現在の中学校第1学年という立場と、昨年までの小学校第6学年の立場という二つの視点を取りやすく、相手がどう捉えるかを想像しやすい。

###### ② 意見の視覚化、整理

- ・自分の考えを記したワークシートに対して意見を記入してもらうことで、他の生徒がどのように受け止めているかを見ることができる。
- ・他の生徒からの意見を受け、自分の考えと他者の考えを統合させることで、自分の考えを整理することができる。

##### 5 主な学習活動

###### (1) 単元の指導計画（全3時間）

時	○学習活動	・指導上の留意点
第1時	○根拠を明確にした意見文とはどのようなものかを考える。	・説得力のある文章に必要な根拠とは何かについて理解させる。
第2時	○他の人の意見を視覚化、整理し、考えを広げる。	・意見を支える根拠が客観的なものになるように指導する。
第3時	○根拠を明確にしなが、自分の意見が伝わるように工夫して意見文を書く。 ○〈交流活動〉意見文を読み合い、根拠が明確かどうかを伝え合う。	・意見文を書く上で、誰に向けて何のために書くのかという意識をもたせる。



## (2) 指導の展開例

### 第1時

#### ① 本時の目標

意見文について理解するとともに、今後の学習の見通しをもつ。

#### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>○本時のねらいを知る。</p> <p>○根拠が明確にされていない意見文の例を読んで、不十分なところを見付ける。</p> <p>○意見と根拠が合っていない意見文の例を読んで、不十分なところを見付ける。</p> <p>○根拠が明確な意見文の例を読んで、説得力のある文章に必要な根拠とは何かについて考える。</p> <p>○次回から取り組む意見文の課題を把握する。</p> <p>○課題として考えられることについてノートに下書きをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元では、「根拠を明確にして意見文を書く」学習を行うことや全体の流れについて伝える。</li> <li>・根拠を明確にした意見文とはどのようなものかを考えさせる。</li> <li>・例文は意見に対する説明が不十分なことを理解させる。</li> <li>・例文は意見と根拠につながりがないことを理解させる。</li> <li>・根拠という言葉の意味を理解させる。</li> </ul> <p>・課題を提示し、読み手が誰なのか、読み手が知りたいことは何なのかについて整理させる。</p>	<p>○根拠を明確にするためにどのような言葉の工夫があるかを考えている。〔授業観察〕</p> <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <p>○読み手に効果的に伝えるための方法について考えている。〔授業観察〕</p> <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p>

## 第2時

### ① 本時の目標

課題に対する意見の根拠について、交流活動を通して吟味する。

### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<p>○本時のねらいを知る。</p> <p>○前時を踏まえ、根拠を明確にした説得力のある文章とは何かを確認する。</p> <p>○課題に対する自分の意見を書き出す。</p> <p>○グループで、付箋を使って、各自が考えたことを出し合う。</p> <p>○グループで出た意見を分類し、視覚化、整理する。</p> <p>○それぞれ出た意見に対する根拠を考え、付箋に書いていく。</p> <p>○それぞれの意見に対する根拠が、課題に対する内容としてふさわしいかどうかをグループで吟味する。</p> <p>○視覚化、整理して出てきた観点を学級で共有し、次回の清書のための下書きをする。</p>	<p>・前時を想起させ、根拠の意味を確認させる。</p> <p>・付箋には、キーワードを書くように指導する。</p> <p>・課題を考える上での観点を理解させる。</p> <p>・意見を書いた付箋の色とは異なる色の付箋を使って書くように指示する。</p> <p>・意見を支える根拠が客観的なものになるように具体例を挙げて指導する。</p> <p>・自分の意見、グループで出された意見、学級で共有した意見を踏まえて書くように指示する。</p>	<p>○自分や他の人の出した意見に対する客観的な根拠を書いている。〔ワークシート〕</p> <p><b>【書く能力】</b></p> <p>○互いに効果的な表現ができるよう考えを出し合っている。〔ワークシート〕</p> <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p>

### 第3時

① 本時の目標

課題に対する意見文を書き、書かれた意見文を互いに読み合う。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<p>○本時のねらいを知る。</p> <p>○課題に対する意見文を書く。</p> <p>○他の人の書いた意見文を、互いに読み合い、気付いたことなど意見をワークシートのコメント欄に書き込む。</p> <p>○この単元の学習全体を振り返る。</p> <p>○本単元で学習できたことを自分の言葉で書く。</p>	<p>・意見文を書く上で、誰に向けて何のために書くのかという意識をもたせる。</p> <p>・他者が書いた文章について、意見の根拠が客観的かどうかについて記入するように指導する。</p> <p>・意見に対する説明が不十分な例文や意見と根拠につながりがない例文のことを思い出させて、根拠を明確にした意見文とはどのようなものかを考えさせる。</p> <p>・次の意見文を書く機会につながるような内容を書くように指示する。</p>	<p>○意見を効果的に伝える表現について考えている。〔授業観察〕 【関心・意欲・態度】</p> <p>○意見を支える根拠が客観的なものになっている。〔ワークシート〕 【書く能力】</p> <p>○指示語や接続語等の役割を理解している。〔ワークシート〕 【言語についての知識・理解・技能】</p>

## 〇〇中学校のよいところを紹介しよう

一年 氏名 ( )

### 目標

これから〇〇中学校に入学してくる小学六年生に、  
〇〇中学校のよいところを伝える文章を書こう。

### ■今日の流れ

- ①前の時間に書いた下書きシートを見ながら、文章を清書する。
- ②書き終わったら、教室の友達と作品を見せ合って、コメントを書いてもらおう。
- ③この三時間を振り返る。

私は、来年〇〇中学校に入学してくる、現在小学六年生のみなさんに、〇〇中学校のよいところを紹介します。

〇〇中学校のよいところは二点あります。一点目は、みんなが仲がよく、いじめがないところです。なぜなら、生徒に思いやりがあり、いじめアンケートやいじめ相談箱を設置して、いじめを早く見つけられるよう工夫をしています。また、生徒会が、言葉の暴力撲滅キャンペーンやいじめ防止標語を募集しています。

二点目は、あいさつが活発なところです。生活委員が毎朝あいさつ運動をしたり、生徒会朝礼で今月のあいさつ目標を掲げたりしています。

以上のことから、私は〇〇中学校をおすすめします。

### 友達からのコメント

具体例を挙げているのでよいところが分かりやすいと思います。

「よいところは二つあります」という表現は、読み手が見通しをもって読めるのよいと思います。

「なぜなら、生徒に思いやりがあり」というところが、もう少し詳しく書くとうっかりやすくなると思います。

## 6 検証授業の成果と課題

第1学年では、課題に対する意見の根拠となる事柄を、他者と交流し、自分の考えを広げる学習活動を行った。本検証授業において、ワークシートに生徒が記述した内容を分析した結果、成果と課題については以下の通りと考える。

### (1) 成果

#### ア 課題に対し、自分の経験と照らして、多様な視点から考える学習活動

身近な話題をテーマにすることで、自分の経験が想起しやすかったので、活発に意見を出し合うことができた。設定する読み手を身近な相手にすることで、具体的に考えることができた。

#### イ グループで意見を視覚化、整理する学習活動

多くの意見を視覚化、整理していくことで、グループの全員で（または学級全体で）意見の全体を捉えることができた。意見を支える根拠を考えていく際、意見に対して「例えばどのようなことか。」という問い掛けをしていくことで、具体的な根拠を引き出すことができた。

#### ウ 評価の観点を意識して「記述」、「推敲」、「交流」する学習活動

単元の始めに、どのような文章が書けるとよいかの具体的なモデルとなる文章を示した。そのモデルとなる文章の優れている要素を全体で確認することで、根拠を示すことの重要性を意識しながら、「記述」、「推敲」、「交流」する学習活動を行うことができた。

### (2) 課題

#### ア 課題に対し、自分の経験と照らして、多様な視点から考える学習活動

今回の課題は、身近な読み手であったので、意見を出しやすかった。ただ、その意見が相手にとって知りたいことなのかどうかを吟味せずに取り組みと、多角的な視点に立てないことがあった。課題に取り組む前に、生徒自身が、「読み手が知りたいことは何なのか」について考えさせる作業が必要である。

#### イ グループで意見を視覚化、整理する学習活動

書かれた内容を分類・整理する時、観点を学級全体で共有することによって、より客観的な視点で考え、文章を書くことができたと考えられる。課題に取り組む前に、物事を考える際に、例えば、安全面、経済面、健康面、環境面といった観点など、全体で出しておくこと、より多角的な意見を出すことができると考えられる。

#### ウ 評価の観点を意識して「記述」、「推敲」、「交流」する学習活動

生徒が取り組む課題とは異なるテーマでのモデルとなる文章を全員で確認したが、生徒自身が取り組む課題は読み手が異なるので、意見が主観的や感情的なものになったり、意見を支える根拠の妥当性が損なわれたりしないよう、「誰に向けて何のために書くのか」という意識をもたせた評価の観点を示してから取り組ませる必要がある。

## <指導事例2：第2学年>

他者の考えや客観的な資料を参考にして説得力のある意見文を書く力を育成する指導

1 単元名 部活動について意見文を書こう ～立場や根拠を明確にして～

### 2 単元の目標

部活動に関する記事やデータを読んだり、分析したりしながら課題に対する自分の立場や考えを定め、自分の意見や考えが効果的に伝わるように工夫して書く。

書いた文章を互いに評価し合うことによって、表現をよりよいものに高め、物の見方や考え方を深める。

### 3 評価規準

#### 【国語への関心・意欲・態度】

- ・部活動に関する自分の意見を効果的に伝えるための言葉の工夫について考えようとしている。
- ・意見を効果的に述べるための文章の書き方を知ろうとしている。

#### 【書く能力】

- ・部活動に関する問題点について自分の主張をまとめ、その根拠となる具体例を探している。
- ・序論・本論・結論（主張・主張の根拠・主張のまとめ）の構成で意見を書いている。

#### 【言語についての知識・理解・技能】

- ・意見を効果的に伝えるための要件を理解している。
- ・「序論・本論・結論」の構成と、「本論」の展開の仕方を理解している。

### 4 研究の視点

#### ① 課題設定の工夫

- ・部活動の活動日数という生徒にとって身近な問題であり、様々な考え方ができる課題とすることで、自分の考えを発表しやすくする。また、週何日という限られた中からの選択により、自分と同じような意見に触れ、考えを深めさせることができる。

#### ② 意見の視覚化、整理

- ・付箋を用いることで、他の生徒の意見を見ることができる。
- ・書かれた付箋を項目ごとにまとめることで、自分の意見と他の生徒の意見を比較することにより、考えを深めることができる。

### 5 主な学習活動

#### (1) 単元の指導計画（全4時間）

時	○学習活動	・指導上の留意点
第1時	○意見文に必要な観点を考える。 ○視覚化、整理を通して説得力のある文章について考えを出し合う。	・意見文とは何か分析を行わせ、理解させる。
第2時	○部活動に関する資料を読んで自分の考えをまとめ、視覚化、整理を通して自分の意見の根拠として適切であるものについて、意見や助言を出し合う。	・部活動という自分に身近な題材について、説得力のある意見文を書くことを理解させる。

時	○学習活動	・指導上の留意点
第3時	○視覚化、整理で学び合ったことを生かしながら、根拠を明確にしながら、自分の意見が伝わるように工夫し意見文を書く。	・説得力のある文章を書くという観点から、グループ活動を通して記述の工夫を考えさせる。
第4時	○「交流活動」で、他の人の書いた意見文を交換し、受け取った意見を分類し、自分の書いた意見文の読者側から見た全体像を見渡し、学習の振り返りと清書をする。	・よりよい意見文にするための意見となるよう指導する。

## (2) 指導の展開

### 第1時

#### ① 本時の目標

意見文について理解するとともに、今後の学習の見通しをもつ。

#### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
<p>○本時のねらいを知る。</p> <p>○意見文とは何か、学習の見通しをもつ。</p> <p>○部活動について日頃から自分が考えている意見を百字程度で書き出す。</p> <p>○小グループで互いに書いたものを基に、観点を確認する。</p> <p>○視覚化、整理で出てきた観点の一部を学級で共有し、説得力のある意見文を書く上で必要な観点をワークシートにまとめる。</p> <p>○説得力のある意見文を書くための視点を確認してワークシートにまとめる。</p>	<p>・意見文を書く上で効果的に意見を伝えるための要件を理解させる。</p> <p>・新聞の投稿、社説、教科用図書の説明文、評論文などの実例と感想文の違いを考えさせる。</p> <p>・部活動の課題を考えるうえでの「活動時間」、「休日の扱い方」などの観点が〈交流活動〉を通して分析を行わせ、理解させる。</p> <p>・どういった視点で観点をまとめるとよいか理解させる。</p> <p>・書く上で必要な要素を確認させる。</p>	<p>・意見文の特徴について理解し、言葉の工夫について考えようとしている。 〔授業観察〕 【関心・意欲・態度】</p>

## 第2時

### ① 本時の目標

意見文の根拠資料を集めたり、互いに交流したりしたことを踏まえて、多様な視点から自分の意見を広げたり深めたりする。

### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
<p>○本時のねらいを知る。</p> <p>○前時を踏まえ、説得力のある文章とは何か確認をする。</p> <p>○新聞記事を基に自分の意見の根拠となる資料を探す。</p> <p>○自分の意見と、新聞の投稿の意見や資料・データとを色を分けて付箋に書き出す。</p> <p>○小グループで話し合い、付箋を整理しながら、説得力のある表現や資料の提示を考える。</p> <p>○各自のワークシートの構成図を作成する。</p> <p>○振り返りシートへの記入を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の活動を基に、自分の意見や考えを効果的に伝えるための工夫をしながら下書きをできるよう資料の活用と視覚化、整理を生かすよう伝える。</li> <li>・根拠となるものについて板書し、整理させる。</li> <li>・自分の意見を補完できる記事やデータを準備する。</li> <li>・話し合いが円滑に行われるように考慮する。</li> <li>・意見の異なる生徒をなるべく同じグループにする。</li> <li>・前時の観点を基に整理させる。</li> <li>・思考を整理させ、第3時で書くための準備を行わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を効果的に伝えるための言葉の工夫について考えようとしている。〔授業観察〕</li> <li>【関心・意欲・態度】</li> <li>・部活動に関する問題点について自分の主張をまとめ、その根拠となる具体例を書いている。〔ワークシート〕</li> <li>【書く能力】</li> </ul>



### 第3時

#### ① 本時の目標

部活動について自分の立場や根拠を明確にした考えをもって、観点を明確にしなが  
ら自分の意見が相手に効果的に伝わるよう記述を工夫して意見文の下書きを書く。

#### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
<p>○本時のねらいを知る。</p> <p>○意見文の構成を確認する。</p> <p>○交流活動で学び合ったことを生かしながら、説得力のある意見文を書くための工夫を意識して下書きをする。</p> <p>○提示した項目を中心に誤字脱字も含めて書いた文章を推敲する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の活動を基に、自分の意見を説得力のあるもの文章にする観点を意識して下書きをすることを伝える。</li> <li>・必ずしも序論・本論・結論の構成にせずともよいことを知らせる。</li> <li>・接続詞の使い方を吟味させる。</li> <li>・上手く書けない生徒に対しては、どの段落にどういった内容を書くかといかの構成図を書いたワークシートを渡し、ワークシートに記入していくことで文章の流れができるようにさせる。</li> <li>・書き出しに工夫、根拠となる資料の活用、説得力のある結論、効果的な接続詞の活用、論の展開にねじれがないか、以上の項目を意識して、推敲をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成や根拠を意識して意見文を書いている。〔ワークシート〕 <b>【書く能力】</b></li> <li>・効果的に伝えるための構成や表現について理解している。〔ワークシート〕 <b>【言語についての知識・理解・技能】</b></li> <li>・目的や意図に応じて工夫した文章を書いている。〔ワークシート〕 <b>【書く能力】</b></li> </ul>

#### 第4時

##### ① 本時の目標

書かれた意見文をグループで読み合い、説得力のある意見文としての工夫について、意見を述べたり助言をしたりし、出された意見を生かしながら意見文を清書する。

##### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
<p>○本時のねらいを知る。</p> <p>○意見文を交換し、互いに読み合い、他の人が書いた意見文に対しての自分の意見をコメント欄に書く。</p> <p>○受け取った意見を分類し、自分の書いた意見文の読者側から見た全体像を見渡し、清書を完成させる。</p> <p>○書いた意見文についてどのような工夫をしたのか、ワークシートにまとめ学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のまとめの時間として意見文を完成させるよう指導する。</li> <li>・よりよい意見文にするための意見をとるよう指導する。</li> <li>・意見が書けない生徒に対して例示を行う。</li> <li>・論の展開や主張は明確か、挙げられている根拠や例は適切かどうかといった視点で考えるよう指導する。</li> <li>・記述の工夫と根拠の妥当性を検証するよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書いた意見文を読み合い、効果的な表現について知ろうとしている。 〔授業観察〕</li> <li>【関心・意欲・態度】</li> <li>・他の人の表現や根拠の挙げ方を自分の表現に生かして文章を推敲している。〔ワークシート〕</li> <li>【書く能力】</li> <li>・学んだことを実生活でも生かしていこうとしている。〔授業観察〕</li> <li>【関心・意欲・態度】</li> </ul>

## 6 検証授業の成果と課題

第2学年では、他者の意見、新聞の記事や関連する資料やデータを関連付けて読むことに加えて、自らの体験や知識と比較・関連付けながら意見文を書かせることで、説得力のある文章の書き方を学び、更には自分の考えをより広げたり深めたりさせた。

### (1) 成果

#### ア 課題に対し、自分の経験と照らして、多様な視点から考える学習活動

生徒作品例のように、客観的なデータや資料、異なる立場の意見を根拠として挙げながら、自分の考えを述べられるようになった。これは、第2時で、同じテーマに対する異なる立場の人の意見やデータの読み取りを行わせ、同じ資料やデータを見ても、立場が異なれば解釈が異なるという視点をもたせることができたからであると考えられる。また、自分の身近で日頃から考えや思いのあるテーマ設定であったこともあり、活発に意見が出された。さらに、生徒は自分の経験を基にした自分の考えが、客観的な資料を根拠に挙げることで説得力が増すことを理解できた。

#### イ グループで意見を視覚化、整理する学習活動

構成を考える以前に、意見の根拠として挙げられることを付箋にメモしたものを、グループで観点別にまとめたことで、書くための根拠を様々な視点から捉えることができるようになった。また、付箋を色別にしたため、個人の経験による意見と、客観的なデータとの違いが明確になり、どの段落に何を書けばよいか、参考になった生徒も多く、効果的であったと考えられる。

#### ウ 評価の観点を意識して「記述」、「推敲」、「交流」する学習活動

各自が書いた下書きを「交流」を通して、互いに評価し合う際に、評価の観点が明確になっているので、何に注目し、どういう視点で助言をすればよいか分かりやすく、どの生徒に対しても有効的であった。

### (2) 課題

#### ア 課題に対し、自分の経験と照らして、多様な視点から考える学習活動

自分の体験と客観的なデータ・資料を盛り込んだ作品が多くあったが、相互の関連やつながりが薄く、根拠を羅列しただけのものもあった。説得力のある文章にするためには、根拠として挙げる客観的な資料を吟味して選択する力を付ける必要がある。

#### イ グループで意見を視覚化、整理する学習活動

視覚化、整理する学習活動のときに、同じ立場や近い考え方の生徒が多いため、意見が広がらないグループもあった。そのために、交流する際、グループ編成の工夫や活動時の適切な支援が必要である。

#### ウ 評価の観点を意識して「記述」、「推敲」、「交流」する学習活動

根拠の妥当性を生徒同士で話し合うとき、評価の観点を示しても、他者の意見を取り入れず、意見だけを主張する場面や、他者の意見を判断せずにそのまま受け入れるといった場面も考えられる。そこで、「書くこと」の単元では、特に「読み手」という相手意識をもたせる指導が重要である。

### <指導事例3：第3学年>

自分の考えや意見を裏付ける事実を根拠として書く力を育成する指導の例

#### 1 単元名 説得力のある文章を書こう ～批評文を書く～

#### 2 単元の目標

取材や分析を通して課題に対する自分の立場や考えを定め、論理展開が明解な文章構成を工夫して書く。

書いた文章を互いに評価し合うことによって、表現をよりよいものに高め、ものの見方や考え方を深める。

#### 3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

・観察や分析をとおして行った判断を基に、説得力のある批評文を書こうとしている。

【書く能力】

・取材や分析をとおして課題に対する自分の立場や考えを定め、論理展開が明解な文章構成を工夫して書いている。

・書いた文章を互いに評価し合うことによって、表現をよりよいものに高め、ものの見方や考え方を深めている。

【言語についての知識・理解・技能】

・観察、分析、判断、評価等の活動をとおして、説得力のある文章における表現方法について理解している。

#### 4 研究の視点

##### ① 課題設定の工夫

・生徒の身近にある広告・キャッチコピーを題材にすることで、自分の意見を主体的に考えることができる。

##### ② 意見の視覚化、整理

・マッピングを行うことで、話し合う内容を可視化させる。

・付箋を用いて助言を色分けさせ、他の生徒の考えを整理し、自分の考えに反映させる。

#### 5 主な学習活動

##### (1) 単元の指導計画（全7時間）

時	○学習活動	・指導上の留意点
第1時	○単元の課題を把握する。また、批評文について理解し、今後の見通しをもつ。	・肯定的評価と否定的評価の両方を加味するなど、意見文と批評文の違いについて理解させる。
第2時	○課題に対しての自分の立場を定め、分析の観点を考える。	・観点、分析の切り口について考え、その時点での自分の考えをまとめさせる。
第3時	○第2時で考えた観点を基に、資料を活用して更に分析を進める。	・図書室、コンピューター室等を活用し、情報を収集させる。

時	○学習活動	・指導上の留意点
第4時	○分析した結果を基に、キャッチコピーについての価値を判断し、評価する。	・他者と取材結果や意見を交流し、考えを広げる。
第5時	○交流した内容を元に、批評文の下書きを記述する。	・自分の考えや立場、それを支える根拠を踏まえ、なるべく客観的な記述になるように指導する。
第6時	○批評文を読み合い、根拠、論理展開・分析の観点や方法について交流する。	・互いに観点をはっきりさせた上で、評価をさせる。
第7時	○第6時を基に、根拠を補強して批評文を清書する。	・論理展開が明解になるように構成を意識させ、批評文を記述させる。

## (2) 指導の展開（全7時間）

### 第1時

#### ① 本時の目標

批評文の特徴について理解するとともに、今後の学習活動への見通しをもつ。

#### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
○学習の見通しをもつ。 ○批評文とは何かについて理解する。 ○分析・観察の進め方について学習する。 ○批評文の例を読み、自分の表現に生かす。 ○批評文の課題を発表する。	・意見文を記述した経験を想起させ、批評文との相違点について理解させる。 ・教科書の分析の方法について紹介する。 ・対象について観察し、客観的評価を根拠とすることを説明する。	・批評文の特徴について理解し、自分が書く際に役立てようとしている。〔授業観察〕 【関心・意欲・態度】

### 第2時

#### ① 本時の目標

批評文の課題についての自分の考えをもち、観点を設けて自分の考えを整理する。

#### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
○批評文の課題を把握する。 ○課題の対象としてキャッチコピーを観察し、批評の観点を設ける。 ○各観点に沿ってキャッチコピーについて考えたことを記述する。	・課題設定についての意図を説明する。 ・観点については教科用図書の例を参考にさせる。 ・生徒同士観点の項目を交流させ、互いに参考にさせる。	・観察や分析を通して、課題に対する自分の立場や考えを明確にしている。〔ワークシート〕 【書く能力】

### 第3時

① 本時の目標

前時で整理した考えについて、資料等を基に分析する。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
○インターネット・図書を参照しながら、情報を収集し、判断や評価の根拠を補強する。 ○分析した内容を整理させる。	・観察や分析するときのポイントを確認する。 ・信憑性 <sup>びよう</sup> のある記事内容に着目させることを指導する。	・自分の立場や考えの根拠を示した文章を書いている。〔ワークシート〕 【書く能力】

### 第4時

① 本時の目標

分析の観点などを交流し、課題について再度分析し、再度判断・評価する。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
○これまでの学習を振り返り、課題についての自分の考えを整理する。	・課題に対しての肯定的評価、否定的評価の両面から、自分の考えが観点ごとに述べられているか確認をする。	・肯定的評価と否定的評価の両面から考えることで論理展開を明解にしている。〔ワークシート〕 【書く能力】
○テーマに対するそれぞれの観点、意見、客観的な資料を共有する。	・小グループでの話し合いの中で、思考を可視化して表現する。	・ワークシートの記述を基に、自分の観点を相手に伝えようとしている。また、相手の伝える内容を聞き、自分の考えを広げようとしている。〔授業観察〕
○各観点から見たキャッチコピーについて交流し、意見や考えを述べ合う。	・新たに得られた視点をふまえ、ワークシートに批評文の構成を整理させる。	【関心・意欲・態度】
○視覚化、整理によって得られた新たな視点を元に、再度自分の考えを整理する。		・批評文の構成を意識して、ワークシートに記述している。〔ワークシート〕 【書く能力】

### 第5時

① 本時の目標

判断と評価を行って下書きし、根拠を補強して説得力のある批評文を書く。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
○前時を振り返り、批評文の下書きを行う。	・肯定的評価、否定的評価の両面を踏まえ、客観的に考えを述べるように指導する。	・論理展開が明解な文章構成を工夫して、批評文を書いている。〔下書き〕 【書く能力】

## 第6時

### ① 本時の目標

下書きした批評文を読み合って交流する。

### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
<p>○批評文の下書きを読み合う。</p> <p>○小グループに人数を分ける。(4～5名程度)</p> <p>○グループの批評文を読み合う。</p> <p>○グループで下書きの内容の相互評価を行う。</p> <p>○各グループで、批評文を選定し、グループ外にも共有をする。</p> <p>○他の人の批評文の内容や、他者からの評価を基に、自分の批評文の改善をする。</p> <p>○振り返りシートへの記入内容を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に小グループ内で共有できるように準備しておく。</li> <li>・交流が円滑に行われるように考慮する。</li> <li>・相互評価の観点を整理させる。</li> <li>・よいところや気付いたところに着目し、個人用ワークシートに二色のラインを引かせ、付箋にコメントを記入する。(よい点を青色、改善点を赤色等)</li> <li>・交流をしながら、グループ用のワークシートに、ラインを引かせ、付箋を貼らせる。</li> <li>・選定した批評文について、よい点をグループ外の生徒にも共有させる。</li> <li>・訪問先のグループの批評文の参考点をメモに控え、自分のグループにもち帰る。</li> <li>・振り返りシートに記入し、思考の整理をさせ、次回につなぐ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの交流活動に参加し、互いの批評文を改善しようとしている。〔授業観察〕 【関心・意欲・態度】</li> <li>・相互評価を通して、説得力のある表現方法について理解している。〔振り返りシート〕 【言語についての知識・理解・技能】</li> <li>・相互評価を通して表現をよりよいものに高め、ものの見方や考え方を深めている。〔授業観察・振り返りシート〕 【書く能力】</li> </ul>

## 第7時

### ① 本時の目標

○交流した内容を元に、批評文を清書する。

### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
<p>○前時で交流した内容を基に、批評文を清書する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートの内容に留意して文章を構成させる。</li> <li>・根拠、論理展開、客観的評価、結論が明解に述べられているか工夫させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理展開が明解な文章構成になるよう、工夫して批評文を書いている。〔批評文〕 【書く能力】</li> </ul>

【第6冊で活用した汎用ワークシートの記入例】

三年 国語科 「説得力のある文章を書こう」 ～批評文を書く～

氏名 ( )

<p>「となりの先生」の広告を見て</p>	<p>よい点 参考にしたいと思った点</p>
<p>僕はこの広告を見て、自分も先生になれるだろうと考えた。</p>	<p>・接続詞を使うことによつて、話の展開が分かりやすくなる。</p>
<p>なぜなら、この広告の女の子は、地域のいろいろな人や動物を</p>	
<p>「先生」と考え、彼らから学ぶことがたくさんあると考えている</p>	<p>・三つと先に示してくれたので、理由が理解しやすかった。</p>
<p>と思うからだ。</p>	
<p>ただ、まだ中学生の僕では言葉や計算等の先生にはなれない。だ</p>	
<p>から、他人のお手本となる行動を取つて、生活の先生になりたいと</p>	
<p>思う。</p>	
<p>そのため、僕は「あいさつ」と「礼儀」、それから「思いやり」</p>	
<p>の三つを心がけたい。</p>	
<p>まず「あいさつ」では、友達だけでなく、先生や地域の人に元気</p>	<p>こうすればさらによくなる！</p>
<p>よくあいさつをしたい。なぜなら、毎朝登校した時に〇〇先生が</p>	<p>改善ポイント</p>
<p>「お早よう」と言つてくれると、その一日が気持ちよく過ごせる</p>	<p>・最後の「思いやり」の部分についてもう少し詳しいとよいと思った。</p>
<p>からだ。僕もあいさつをして他人を気持ちよくさせたいと思う。</p>	
<p>次に「礼儀」である。僕はついつい先生や大人に対して正しくな</p>	<p>・「正しくない話し方」でなく、「友達に対するような言葉づかい」等、別の表現にするとよいと思います。</p>
<p>い話し方をしてしまう。相手のことを考えたら、礼儀正しく振る舞</p>	
<p>うことは大切だと感じるので、これからは話し方を直してい</p>	
<p>きたい。</p>	
<p>最後に「思いやり」だが、他人に親切にできる人はだれからも好</p>	
<p>かれる人だと思う。僕も他人に親切にして、誰からも好かれる人</p>	
<p>になりたい。</p>	
<p>僕はこれらのことを行つて、生活の先生になれるよう努力をして</p>	
<p>いきたい。</p>	



## 6 検証授業の成果と課題

第3学年では、観察や分析をとおして判断し、さらに交流活動をとおして自分の考えを広げさせる学習活動を行った。

### (1) 成果

#### ア 課題に対し、自分の経験を照らして多様な視点から考える学習活動

広告という普段の生活の中にある題材を設定したため、多くの生徒が自分の考えを述べる事ができた。また他者の意見を取材しようとする姿勢が多く見られた。

#### イ グループで意見を視覚化、整理する学習活動

第4時では小グループによる交流を活用してマッピング作業を実施した。生徒は円滑に話し合える事ができた。また、本時においては二色の付箋を活用し、意見を整理させた。このように意見を色分け、分類、整理していくことで他者からの評価を分かりやすく受け止めさせる事ができた。

#### ウ 評価の観点を意識して、「記述」、「推敲」、「交流」する学習活動

第6時で使用した振り返りシートに、「内容に入る前に、『その理由は』などと言葉を加えると、展開が分かりやすくなる事が分かった」という記述が見られた。

このことから、他者の文章表現から自分の記述に生かそうとする姿勢や、他者からの評価を受けて、改善を図ろうという姿勢が感じられた。

### (2) 課題

#### ア 課題に対し、自分の経験を照らして多様な視点から考える学習活動

取材の段階で、一つの問題に特化させようとする生徒が多くいた。そのため、多様な視点をもたせるための働き掛け、批評の観点の設定の助言が必要である。

#### イ グループで意見を視覚化、整理する学習活動

付箋を用いて視覚化、整理させる学習活動を効果的に実施するためには、日頃からグループで意見を視覚化したり、整理したりする活動を積極的に取り入れ、学習者側が慣れていく必要がある。

#### ウ 評価の観点を意識して、「記述」、「推敲」、「交流」する学習活動

導入段階で教師側から明確に改善の視点を示すと、より話し合う内容が具体的に変わった。導入段階で、文章の流れが分かりにくいものや、論理に一貫性がないもの等というものをよくない例として提示したが、よい例を具体的に示すような工夫を行って話し合いを進めさせることも考えられる。

## V 研究のまとめ

### 1 研究の成果

#### (1) 課題に対し、自身の経験と照らして、多様な視点から考える学習活動

身近な話題をテーマに設定することで、意見文を書くことに苦手意識をもっている生徒も、自身の経験に基づいた意見や根拠を挙げる事ができた。

#### (2) グループで意見を視覚化、整理する学習活動

生徒が自分の意見を付箋に書き出すことで、グループまたは学級全体で出された意見を共有することができた。また、複数の色の付箋を活用することは、意見の分類、整理の手掛かりとして有効であった。さらに意見を支える根拠を考える際、「例えばどのようなものがあるか」と具体例を確認することで、より具体的な根拠を引き出すことができ、意見を円滑に整理することができた。

#### (3) 評価の観点を意識して「記述」、「推敲」、「交流」する学習活動

単元の初めに、目標となる文章の具体的な例文を示し、その例文の優れている点を生徒と共に確認することで、根拠を示すことの重要性を意識した「記述」、「推敲」、「交流」ができた。また、評価の観点が、「記述」に必要な視点であるため、生徒も到達点が把握しやすく、見通しをもって学習に取り組むことができた。さらに、他者の文章を読み、交流することで、他者の文章表現から自分の記述に生かそうとしたり、他者からの評価を受け、改善を図ろうとしたりする姿勢が見られた。

### 2 研究の課題

#### (1) 課題に対し、自身の経験と照らして、多様な視点から考える学習活動

生徒にとって身近な話題でテーマを設定したため、多くの生徒が自分の考えをもつことができた。今後は、身近な事柄だけでなく、あらゆる事象に対して自分の考えをもてるようになっていく必要がある。そこで、課題設定を段階的に向上させていくことが必要である。

#### (2) グループで意見を視覚化、整理する学習活動

グループで意見を視覚化、整理する学習活動を行う際、他の生徒の意見に対して自分の考えを述べることや付箋を用いた活動などにおいては継続して行い慣れていく必要がある。

自分の意見を述べるようになるために、普段の授業からグループでの活動を取り入れて、他の人の話を聞くこと及び自分の意見を伝えることができるよう機会を増やしていくことが必要である。

#### (3) 評価の観点を意識して「記述」、「推敲」、「交流」する学習活動

伝えたいことを決めた後、伝える相手を意識しなければ、説得力を高めることも、評価することも難しくなる。そのため、指導の際には、読み手を意識し、「誰に向けて、何のために書くのか」を意識した評価の観点を示してから取り組ませる必要がある。

## 平成28年度 教育研究員名簿

### 中学校・国語

学 校 名	職 名	氏 名
千代田区立九段中等教育学校	主任教諭	石田 沙世子
足立区立花畑中学校	主任教諭	熊野 有利子
葛飾区立亀有中学校	教 諭	米澤 絵里子
八王子市立川口中学校	教 諭	橋爪 由香里
立川市立立川第一中学校	主任教諭	◎佐藤 裕 輔
西東京市立田無第二中学校	主任教諭	熊谷 浩

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課

指導主事 谷岡 徹

平成28年度

教育研究員研究報告書  
中学校・国語

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成28年度第142号〕

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 株式会社オゾニックス